公益社団法人
東京都理学療法士協会 News

NO.220

2021.11.25 発行
◆発　行　公益社団法人
東京都理学療法士協会
◆発行人　森島　健
◆編集人　井出　大
医療法人社団永生会
法人本部リハビリ統括管理部
〒193-0942
八王子市椚田町 583-15
TEL :042-661-4108

第 40 回東京都理学療法大会　開催報告

2021 年 11 月 21 日（日）に第 40 回東京都理学療法学術大会が開催されました。当初、ハイブリット形式での開催を予定しておりましたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、オンライン形式での開催へと変更いたしました。シンポジウムⅠ・Ⅱ、特別講演、都民公開講座、教育企画、指定演題を LIVE 配信し、一般演題をオンデマンド配信としました。なお、当日 LIVE 配信されました各プログラムも、後日視聴できるようオンデマンド配信といたしました。オンライン形式という慣れない中での学会運営ではございましたが、学会当日は 210 名のアクセスがあり、ご参加くださいました皆様、準備・運営にご支援、ご尽力くださいました後援団体様，協賛関係各社様、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

第 1 会場

■第 40 回東京都理学療法学術大会テーマ
「理学療法の多様性 ～理学療法の可能性を考える～」
■大会長：伊藤 滋唯（介護老人保健施設 ケアセンター南大井）
■副大会長：岡村 大介（聖路加国際病院）
■準備委員長：山手 千里（東京衛生学園専門学校）
■会期：2021 年 11 月 21 日（日）9：20 ～ 17：30
オンデマンド：11 月 25 日（木）～ 12 月 9 日（木）
一般演題は 11 月 21 日（木）からオンデマンド配信開始
■ライブ配信参加者：210 名

220 号の目次

第 40 回東京都理学療法学術大会準備員会…………　1 ～ 2
第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会　‥3
地域活性局 ………………………………………4 ～ 8
渉外部……………………………………………　9
健康増進部………………………………………10
高齢福祉部・障害福祉部・選挙管理委員会……………11
地域包括ケアシステム推進部…………………………12
理学療法関連機器開発委員会・倫理委員会…………　13
スポーツ局スポーツイベントサポート部………… 14 ～ 17
スポーツ局学校保健部………………………………18
スポーツ局国際競技大会・スポーツ理学療法推進部……19
災害対策委員会………………………………………20
機関紙編集部　………………………………………20
編集後記………………………………………………21

第 40 回東京都理学療法学術大会準備委員会

報　告

委員長　山手 千里

第 40 回東京都理学療法学術大会　開催報告

【大会長賞】

「重症 COVID-19 患者の早期離床における、端座位実施可否の因子の検討」

霜田 晃佑　東京医科歯科大学医学部附属病院 リハビリテーション部

【副大会長賞】

「進行性多巣性白質脳症により運動失調を呈した症例―コアトレーニング実施で移乗動作の介助量が軽減した一例―」

佐藤 裕子　東京医科大学病院 リハビリテーションセンター

【奨励賞】

「経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）後の転帰先と在院日数に関わる因子の検討」

加藤 渉　聖路加国際病院 リハビリテーション科

「Pilon 骨折術後の足 ROM 背屈制限に対し荷重位で足関節評価・ROM 練習を行う事で背屈可動域が獲得できた一症例」

平良 寛朗　医療法人社団 松和会 池上総合病院 リハビリテーション室

なお、当日通信状況などのトラブルなどがあり、一部視聴されていた方にはご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

報告者：齋藤　雄（台東区立台東病院）

第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会

お知らせ

委員長　中澤 幹夫

第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会

（同時開催）第 41 回東京都理学療法士学術大会　開催のお知らせ

テーマ：新しいスタンダードの構築に向けて ―令和の理学療法の進み方―
開催方法：会場での対面開催とその内容のライブ配信、またアップロードされた発表データをオンデマンド配信する WEB 開催をあわせたハイブリッド学会として開催。
会期：2022 年 9 月 10 日（土）・11 日（日）
内容：基調講演 / 特別講演 / 教育講演 (一部) / シンポジウム等
会場：日本教育会館
〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2
学会長：林 弘康（八王子保健生活協同組合 城山病院）
副学会長：原島宏明（医療法人財団健貢会　総合東京病院）
準備委員長：中澤幹夫（医療法人社団幸隆会　多摩丘陵病院）

ブロック・支部活動予定

第９回 西多摩南多摩ブロック学術集会

大会長：小林　健一
日 時：令和４年１月 30 日（日）9：00 ～ 13：00
会 場：Web 上
大会長：小林 健一（康明会ホームケアクリニック）
特別講演：コロナ禍における介護予防・フレイル予防
～理学療法士が提案する多角的アプローチ～
山田 実 氏（筑波大学人間系　教授）
一般演題：20 演題（口述発表）
【演題募集期間】2021 年 10 月 29 日（金）～ 12 月３日（金）
＊演題募集に関する詳細は、都士会ホームページ「第９回　西多摩南多摩ブロック学術集会開催のお知らせ」の『一般演題募集要項』をご覧ください。
http://www.pttokyo.net/gakkai/2021/10/16964.html

公益社団法人 東京都理学療法士協会
第９回　西多摩・南多摩ブロック学術集会

特別講演 9：15～10：45	コロナ禍における介護予防・フレイル予防 ～理学療法士が提案する多角的アプローチ～ 山田 実 先生　(筑波大学　人間系　教授)
一般演題発表 11：00～13：00	合計２０演題予定 演題募集：10月29日（金）～12月3日（金） 発表形式：オンライン（発表7分、質疑応答3分）

開催日時	**2022年1月30日（日）** 9：00～13：00
開催形式	オンライン形式　ZOOMにて開催
大 会 長	小林 健一（康明会ホームケアクリニック）

◆事前申し込み方法　:日本理学療法士協会マイページよりお申込みをお願い致します。
※マイページログイン後，メニュー→研修会・学術大会→申込登録
→セミナー番号入力で申込が可能（セミナー番号： 25988 ）
現金振込 申込期間
2021年10月30日～2021年12月27日（支払期限は2022年1月17日）
カード決済 申込期間
2021年10月30日～2022年1月10日　　参加には事前申し込みが必須となります。
●日本理学療法士協会　会員外の方のご参加の場合は、
右記QRコードからお申込みください。
◆参加費：都士会員 1500円　日本理学療法士協会員　2000円
会員外の医療福祉関係者 4500円

【お問い合わせ】
minaminishitamablock@pttokyo.net　　担当：工藤 弘之

理学療法士協会　**会員外専用**
申し込みフォーム

ブロック・支部活動報告

介護予防キャンペーン　北多摩ブロック部

今年度の介護予防キャンペーンは、北多摩ブロック部が担当でした。例年『7 月１７日理学療法の日』に合わせて行われる事業ですが、コロナ禍のため対面イベントは見送り、介護予防パンフレット（理学療法ハンドブック１（健康寿命）および都士会リーフレット）の都民向け配布を実施いたしました。北多摩ブロック各市の自治体関係施設にもご協力いただき、計 3110 部のパンフレットを配布することができました。この配布には、立川市にある就労継続支援 B 型事業所「キッチンさかえ」さんのご協力もあり実現いたしました。みなさまご協力をいただき、誠にありがとうございました。

区北西部ブロック部　豊島区支部　豊島区委託事業　令和３年度フレイル対策機器活用講座介護予防キャンペーン

日時：令和 3 年 7 月 29 日（木）13：00 ～ 14：30

場所：豊島区立東池袋フレイル対策センター

参加者数：8 名

講師：村本幸祐（ゆみのハートクリニック）／サポート：上原裕司

報告：今年度、豊島区支部では、豊島区役所から事業委託を受け、豊島区内のフレイル予防センター・各区民ひろばに設置されている※下記の装置に対する①測定結果の見方、②動作改善のための具体的な運動方法について（参加者、関係者並びに支部員の健康に留意した上で）の講座を行いました。

※フレイル予防測定機器 (A：歩行姿勢測定システム・NEC 社／ B：ザリッツ・タニタ社)

目的：

・区民並びに施設職員の方々がフレイル予防測定機器への興味を深め簡単に使用出来る様になる。

・この機器を利用し継続的かつ短時間で楽しく自分の身体を知り介護予防活動へのきっかけを作る。

内容：今回は、対面での実施にあたっては行政の指示及び相談の上、事前の体調確認および当日の検温・換気・手指消毒・ソーシャルディスタンスなど感染対策に十分配慮した上で実施しております。

ザリッツは、椅子から立ち上がるだけで筋力・バランス・スピードなどのデータを測定できる機器です。この測定結果の見方や、それぞれの結果を改善するための具体的な運動紹介を交えて講座を行いました。参加者の皆様からも「運動不足が気になっていたので開催してもらって良かった」「機器に興味を持つことが出来た」、「教えてもらったトレーニングを続けて、また 3 か月後に使ってみたい」など嬉しいお声を頂くことが出来ました。皆さまにフレイル予防測定機器に興味を持って頂き、継続的な利用そして健康増進へとつながる様、感染予防に最大限の注意を払いつつ活動をして参ります。

(※今年度全 11 ヶ所での講座実施予定。令和 4 年度は、20 ヶ所の講座依頼あり。)

報告者：村本 幸祐（ゆみのハートクリニック）

第 1 回目　高田介護予防センター
（講師：村本幸祐 / ゆみのハートクリニック）

第 2 回目　東池袋フレイル対策センター
（講師：村本幸祐 / ゆみのハートクリニック）

第 4 回目　区民ひろば清和第一
（講師：芳野　純 / 帝京平成大学）

第 6 回目　区民ひろば富士見台
（講師：鈴木享之 / 長汐病院）

区西北部ブロック部　豊島区支部

介護予防大作戦！ in としま　2021 「コロナフレイルに負けない！としまの介護予防活動　」

日時：令和 3 年 10 月 29 日（金）9:30 ～ 15:30

場所：としま区民センター（豊島区東池袋 1-20-10）

ブース来場者：約 100 名

参加スタッフ：１日参加／上原裕司（長汐病院）、武井ひなた（目白大学 理学療法学科 ４年生）

半日参加／ AM　田邊泰雅（目白整形外科内科）、關　詩織（長汐病院）

PM　土田典子（都立大塚病院）、田中　萌（長汐病院）

概要：毎年 10 月に開催されている " 介護予防大作戦！ In としま " は、豊島区高齢者福祉課が主催の区民を対象とした、健康や介護予防についての情報を発信する年に 1 度のイベントです。COVID-19 の影響により多くの場面での自粛を余儀なくされる中、感染対策に十分配慮した上での開催となりました。今年のテーマは「コロナフレイルに負けない！としまの介護予防活動」ということで、コロナ禍でも工夫をしながら積極的に活動をしてきた自主グループ様や高齢者福祉課の活動紹介、フレイルに関しての講座・啓発などについて、ブース出展・映像放映といった方法で行われました。

実施内容：豊島区支部は、本イベント内にブースを出展させて頂き、豊島区にある 20 の区民ひろばの内 11 箇所に導入されているフレイル対策機器の１つである「ザリッツ（タニタ社）」を使用して下記内容を実施いたしまいた。

・「ザリッツ」による下肢筋力測定とその結果に対するフィードバック

・測定結果をもとに、結果改善のための簡単な運動紹介

・機器の導入されている区民ひろばの案内や継続的な機器の利用の啓発ならびにフレイル、介護予防に関するアドバイス

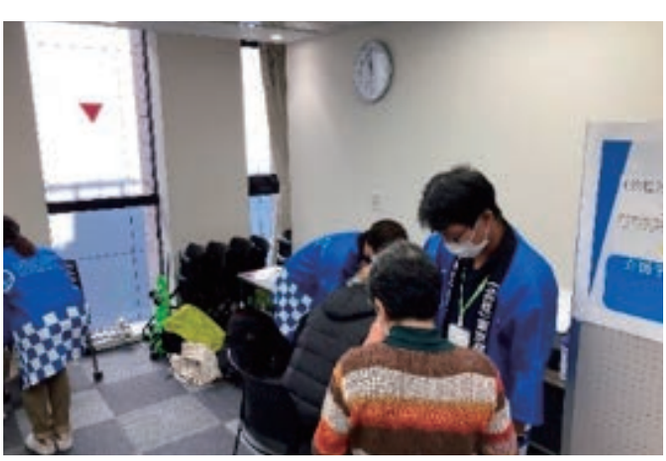
・豊島区支部員作成のチラシの配布、理学療法士の啓蒙活動

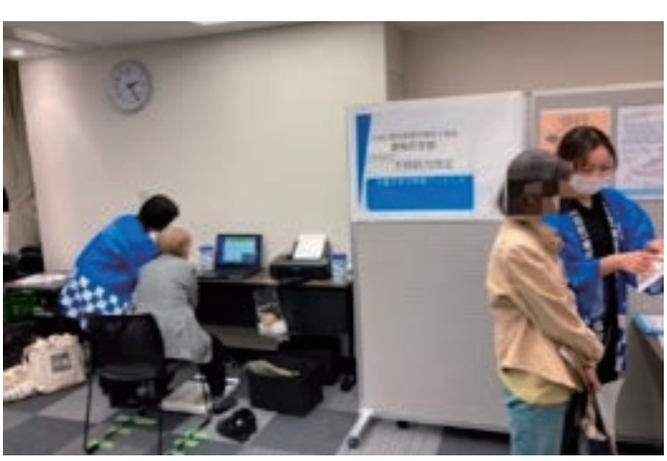
報告：多くの来場者の方から運動不足による体力低下や運動習慣の減少の声が聞かれ、都民の方々の健康意識の高さを改めて感じるイベントとなりました。実施していく中で、「とても良かった」、「楽しく自分の身体の状態を知ることができた」、「継続して使ってみたい」とのご意見を頂くことができ、都民の方の健康維持・介護予防への一助になったと実感しております。

また、本事業は毎年学生のスタッフとしての参加を推奨しており、地域の中の理学療法士の活躍･必要性を肌で感じて頂いております。今回も１名の学生がスタッフとして参加し、「病院や施設内の理学療法士の役割とは違った一面が知れて大変勉強になった」との感想を頂いています。

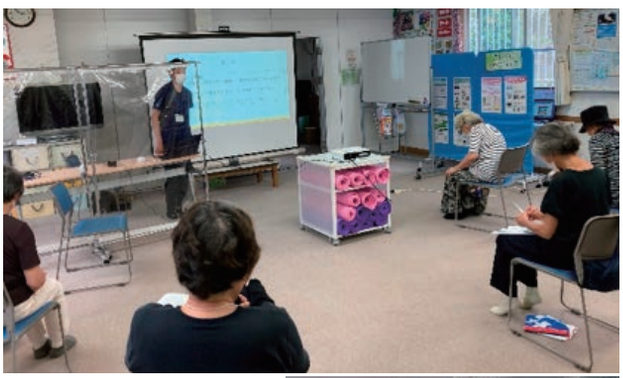
理学療法士の専門性を活かし、都民の方々の不安に対して継続して答えていく必要と、次の世代の理学療法士たちへ理学療法の素晴らしさを伝えること。そのためにより一層の支部活動を盛り上げて参りたいと思います。

報告者：上原 裕司（長汐病院）





区西北部ブロック部　豊島区支部　豊島区委託事業　令和３年度転倒予防教室



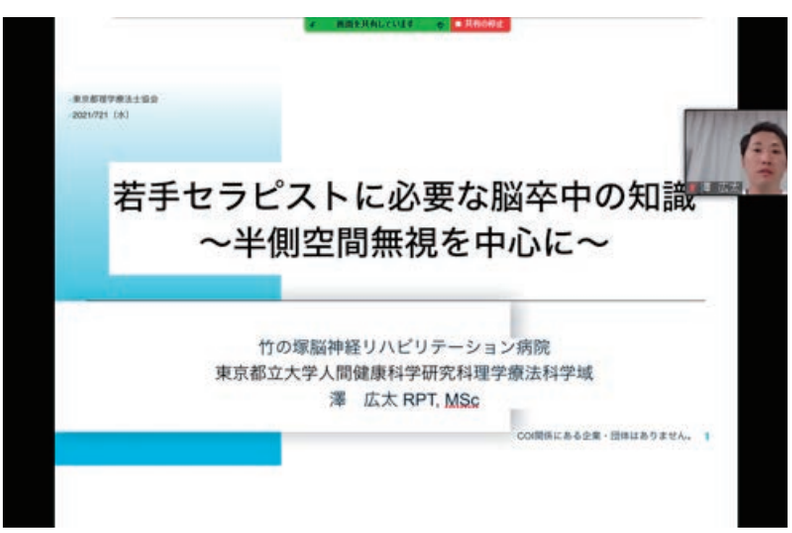
日時：令和３年９月８日（水）14：00 ～ 15：00
場所：豊島区 区民ひろば朝日
参加者数：６名
講師：川名　健（目白整形外科内科）／サポート：上原裕司
内容：今年度、豊島区支部では豊島区から業務委託を受け、豊島区内の区民ひろば３ヶ所にて前編・後編構成の計６回の転倒予防教室を行っております（今年度で業務委託は３年目となります）。転倒は要介護になる主な原因の１つで、豊島区では約 20％の人が経験するとされており、転倒予防が重要とされています。

今回は、区民ひろば朝日における転倒予防教室後編ということで、６月に実施した前編から３ヶ月期間を空けての実施となりました。
緊急事態宣言の最中、６名の方に参加していただきました。参加者は全て女性で、年齢は 70 ～ 80 歳代、全員が杖を使用していない独歩可能な高齢者でした。緊急事態宣言中でしたので、行政の指示及び相談の上、施設の方々のご協力の下に事前の体調確認、当日の検温、換気、手指消毒、ソーシャルディスタンスなど感染対策に十分配慮した上で実施しました。
内容としては、身体機能のセルフチェック、転倒予防についての座学、自宅で行えるセルフエクササイズの実施を行いました。教室後のアンケートでは、内容について「とても良かった」との回答をいただき嬉しい結果となりました。人数が少なかったこともあり、参加者の方１人１人と積極的にコミュニケーションを取ることができ、参加者全員に丁寧な対応ができたのではないかと思います。また、教室終了後に１名の方が私のもとに日頃の体の悩みや、運動について質問に来てくださり、お悩みやご質問についてお答えできたことで、お役に立てたのではないかと思います。
今後も転倒予防の重要性を地域の皆様に伝えていき、健康増進、介護予防につながる様活動を続けていきたいと考えております。

報告者：川名　健（目白整形外科内科）

令和３年度足立区支部研修会「若手セラピストに必要な脳卒中の知識」

日時：令和３年７月 21 日（水）
会場：web 開催（ZOOM）
テーマ：若手セラピストに必要な脳卒中の知識
～半側空間無視を中心に～
講師：澤　広太（竹の塚脳神経リハビリテーション病院）
参加数：22 名

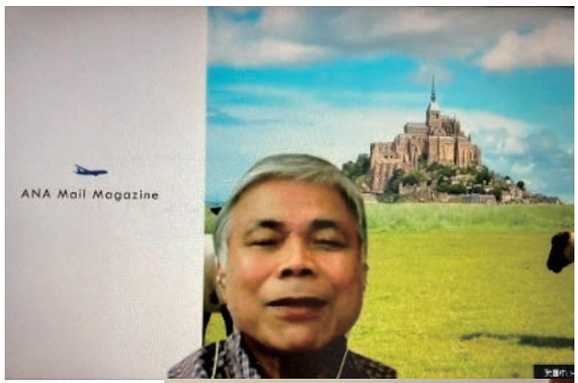


内容：今回は、認定理学療法士 (脳卒中・補装具) を取得されております竹の塚脳神経リハビリテーション病院の澤広太先生をお迎えし、若手セラピストに必要な脳卒中の知識として、半側空間無視についてのメカニズムや評価方法、介入中の基本的な考えやエビデンス等をわかりやすく丁寧に講義していただきました。半側空間無視の病態特性は様々であり、起因する病態特性やメカニズムを理解し、介入を行うことが重要であることを改めて理解することが出来ました。また、参加後のアンケートでも理解度・満足度ともに良かったと多くの感想もいただけました。今後も足立区支部として皆様の知識、技術の向上にむけた取り組みを行ってまいります。

報告者：末永達也（竹の塚脳神経リハビリテーション病院）

区西北部ブロック部　研修会①　part1　　呼吸器リハビリテーション

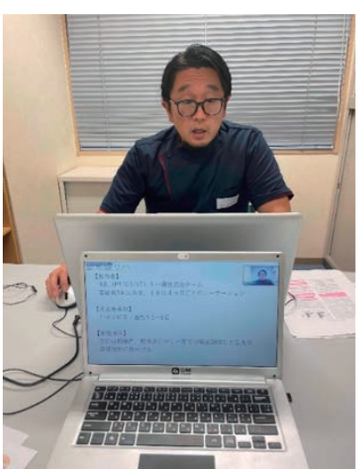
～　疾患を深く学ぶ各論篇　慢性閉塞性肺疾患　～



日時：令和３年７月９日（金）19:00 ～ 20:30
開催方法：ZOOM を使用したオンライン
参加者数：約 70 名（OT、ST、看護師含む）
講師：千住 秀明（長崎大学大学院 名誉教授、複十字病院 呼吸ケアリハビリセンター付部長）
司会進行：鈴木享之（長汐病院）、渡邊寿彦（ゆみのハートクリニック）
内容：昨年度の総論に引き続き、呼吸器疾患・呼吸器リハビリテーションの各論第１回目（今年度全３回を予定）として、慢性閉塞性肺疾患について千住秀明先生にご講演を頂きました。慢性閉塞性肺疾患の病態や現状、呼吸リハビリテーションの実際やその重要性について等、治療場面の動画を交えながら分かり易くご講演頂きました。実技を含めた対面での講習会が望まれる中オンラインでの開催となりましたが、参加者の方からは「実際の患者様の訓練場面の映像がありわかりやすかった」、「症例をご紹介いただき、治療の理解を深めることができた」等、とても好評な講座となりました。また、今後の講座も楽しみにしていますとのお声をとても多く頂けました。次回も、ご参加頂いた方々と共に、呼吸リハビリテーションについて理解を深め、更なる知識と技術を手に入れられるよう、運営サイドもより一層の準備をして参ります。最後に、御講演そして常に日頃より情熱的エネルギーを頂戴しております千住秀明先生に心からの感謝と御礼を申し上げます。

報告者：上原 裕司（長汐病院）

西多摩南多摩ブロック部　オンライン研修会



日時：令和３年 10 月 28 日（木）19：00 ～ 20：30
開催方法：ZOOM によるオンライン研修会
テーマ：「認知症患者へのリハビリテーション職種の関わり方～タイプ別の事例を通して～」
講師：奥出　聡（平川病院　理学療法士）
参加者数：133 名（都士会員 89 名、会員外 44 名）
内容：私たちが、臨床現場で日々多く経験する認知症患者への関わり方について、実際の認知症治療病棟でのリハ職の動きから、症状や対応方法などわかりやすくご講義いただきました。BPSD と中核症状の整理から、患者の不安に対して不適切な対応が易怒性や暴力、抑うつに繋がってしまうこと、その対応のポイントまで改めて考えさせられる内容でありました。また、タイプ別の事例をご紹介いただきながらご説明いただいたことで、非常にイメージがしやすく明日からの臨床に活かせる内容であったと思います。ご講義の中で何度かお話された、どの関わり方も人としての尊厳を重要視して、誠実な対応をすることが大事というお言葉が非常に胸に響きました。オンラインでありながら、多くの方にご参加いただき、活発なご質問も多く大変有意義な研修会となりました。

報告者：工藤 弘之（大久野病院）

車第 48 回国際福祉機器展　出展報告

2021 年 11 月 10（水）～ 11 月 12 日（金）に東京ビックサイト青海展示場にて第 48 回国際福祉機器展が開催され、日本理学療法士協会と共同出展させて頂きました。昨年は新型コロナウィルスの影響により中止となってしまったため、2 年ぶりの開催となりました。例年より規模が縮小されての開催となりましたが、3 日間で約 4 万人が参加し、対面で行えた事でとても有意義な開催となりました。今回は理学療法士の視点から腰痛予防と福祉機器の選び方と使い方を、映像を用いたミニ講座を放映しアドバイスをさせて頂きました。また展示ブース内に理学療法士協会が発行している理学療法ハンドブックの案内を設置し、参加された皆様に疾病への理解や予防啓発をさせて頂きました。これからも活動を通じて障がい者のみならず、その関わりのある方たちや都民の皆様の健康維持・向上、疾病予防に努めてまいります。

報告者：渉外部　荒木達也

石川 優愛

今回、初めての国際福祉機器展に参加させて頂きました。
病院外での活動は初めてでしたが、同日参加していた先生方に沢山フォローして頂き、無事最終日を終えることが出来ました。
活動の中でエスカレーターマナーアップに関するご質問を頂いた際、多くの方に周知したいので、ノベルティのバッジはどちらで手に入るのでしょうか？もっと公共の場で、拡散してほしいなど、ご意見をいただきました。その時、理学療法士の活動範囲の広さや、必要性を感じることができました。。
今後もこのような活動に参加していき様々なことを学んでいきたいと思います。

健康増進部

部長　小澤 伸治

「介護職員に向けた腰痛予防の取り組み」の DVD を制作・配布報告

今回、健康増進部では「介護職員に向けた腰痛予防の取り組み」をテーマに DVD を制作、都内の特別養護老人ホーム 10 施設に配布致しました。この DVD は「介護職における現状と腰痛予防」「正しい介助姿勢のポイントと残存機能の活かし方」「姿勢の確認とトレーニング方法の選択」「コルセットの使用方法」の 4 つのチャプターで構成され理学療法士の視点を生かした自立支援型介護への転換を促す内容となっております。

DVD のご視聴から約 1 か月後に介護職へのアンケートを回収し当該活動の効果を検証して参ります。健康増進部は今後も産業リハビリテーションの一環として職種ごとの腰痛予防について更に活動を継続していく予定です。

報告者：健康増進部部長　小澤伸治

報　告

高齢福祉部

部長　石塚 佳久

高齢福祉部　都民向け介護予防講演会 WEB 開催報告

11 月 7 日 (日) 杏林大学松村将司先生による「めまい・ふらつき対策」の、都民向け zoom 講演会を開催いたしました。当日参加 103 名（内訳：一般 36 名、PT44 名、他職種 12 名、学生 4 名、分類無記入 7 名）と、おかげさまで盛況の裡に終えることができました。
非常にわかりやすく実践的な講演内容は、後日、期間限定で公開予定です。都士会ホームページでの続報をぜひともお待ちください！（前年度講演「認知機能低下予防に効果的な運動」順天堂江東高齢者医療センター國枝洋太先生内容も配信予定）

報告者：石塚 佳久（田無病院）

お知らせ

障害福祉部

部長　工藤 弘之

障害福祉部研修会開催のお知らせ

日 時：2022 年 1 月 17 日（月）18：30 ～ 20：00
開催形式：Zoom による Web 開催
テーマ：障害者福祉サービスの理解を深めよう　～通所サービスの実際～
講師：小原 誠太郎 氏（江戸川区立みんなの家　施設長）
参加費：東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会会員　無料
　　その他（他士会・非会員・他職種）　1,000 円
申込方法：以下の URL からお申し込みください。
　　https://forms.gle/zSmhGhi2MV4Aq4fr8
申込期間：2022 年 1 月 10 日（月）まで
※東京都理学療法士協会会員の方は、地域包括ケアシステムに関する推進リーダー制度に係る士会指定事業の対象となります。
問い合わせ先：tpta.syougaifukushi ● gmail.com（●を @ に変えてください）
　障害福祉部　担当：工藤・金子・近藤

報告者：工藤 弘之（大久野病院）

お知らせ

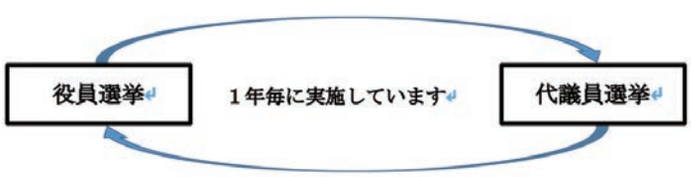
選挙管理委員会

委員長　髙橋 雅人

選挙管理委員会より　選挙についてのご案内

東京都理学療法士協会では、１年毎に役員選挙と代議員選挙を実施しています。

2022 年は代議員選挙が実施されます。



代議員はブロックごとに定数が決められています。
各ブロックの代議員は、東京都理学療法士協会ホームページ
＞ 本協会について ＞＞代議員名簿　に掲載されておりますのでご確認下さい。
また、自身の所属ブロックは、東京都理学療法士協会ホームページ ＞ 会員の方へ ＞
＞ブロック・支部からのお知らせ　にてご確認いただけます。

今回の代議員選挙は、2022 年 1 月末から 2 月初旬にかけて立候補受付を行う予定です。
告示文面は東京都理学療法士協会ホームページに 2022 年 1 月下旬に掲載予定です。

ご自身の所属ブロックをご確認の上、会員一人一人が、今後の協会運営を決めていくという意識を持ち、選挙への参加をお願い致します。

報告者：野々山 良輔（東京大学医学部付属病院）

地域包括ケアシステム推進委員会

委員長　田中 美和子

【介護予防推進リーダー導入研修のご案内】

【 開催日 】2022 年 2 月 20 日（日）
【予定時刻】９：３０～１６：３０（受付は９：００～）
【会　場】WEB 研修（WEB ミーティング「ZOOM」を利用いたします。グループワークもあるため、WEB カメラとマイクが使える機材をご用意ください。）
【対　象】協会マイページにてリーダー登録申請したのち、e- ラーニング受講した（一部免除）東京都理学療法士協会会員、日本理学療法士協会会員（他道府県士会会員）
【受講料】都士会員　２０００円　他道府県士会会員 ４０００円
【内　容】
講　義　①　介護予防・日常生活支援総合事業とリハビリテーション専門職の取り組みを知る
　　講　師：中村　睦美　（東都大学）
講　義　②　介護予防事業の展開方法　～住民のやる気を引き出す 5 min. プレゼンをつくろう～
　　講　師：石塚　佳久　（田無病院）
講　義　③　介護予防の実践　～住民がやる！と決めた時の応援１０か条をつくろう～
　　講　師：卜部　吉文　（大橋病院）
講　義　④　介護予防事業の企画立案　～通いの場の実践事例の紹介～
　　講　師：倉地　洋輔　（からだ康房）
【募集人数】８０人
【申込み先】近日中に都士会 HP ならびに日本協会 HP のマイページにて公開予定！
※日本理学療法士協会マイページの会員専用コンテンツ内に、推進リーダー制度についての説明がございます。ご一読ください。

【お問い合わせ先】田無病院　　石塚　　tanashi_pt_ishidzuka@yahoo.co.jp

地域包括ケアシステム推進委員会　令和３年度フォローアップ研修会のご案内

日　時：令和 3 年 12 月 16 日 (木)　18:30 ～ 20:30（受付 18:10 ～）
テーマ：地域ケア会議の実際　～リハ専門職が地域ケア会議で求められるスキル～
会　場：オンライン研修会（ZOOM）
定　員：50 名　※定員になり次第募集を締め切ります。
対　象：・地域包括ケアシステムに関する推進リーダー制度導入研修修了者
　　（地域ケア会議推進リーダー・介護予防推進リーダーいずれの導入研修でも可能）
　　・現在地域ケア会議や介護予防事業に関わっている又は関わる予定のある理学療法士
備　考：地域包括ケアシステムに関する推進リーダー制度に係る士会指定事業の対象となります。
　　生涯学習制度履修ポイントの対象にはなりません。

内　容：
　　18：35 ～ 18：55　講義 1．地域ケア会議の概要、大田区地域ケア会議の紹介
　　講師：田中美和子氏（地域包括ケアシステム推進委員会）
　　18：55 ～ 19：15　講義 2．西東京市地域ケア会議の紹介
　　講師：石塚佳久氏（医療法人財団緑秀会　田無病院）
　　19：15 ～ 20：15　グループワーク　（事例を用いて検討）
　　20：15 ～ 20：30　総評、質疑応答

参加費：無料
申込期間：令和 3 年 11 月 5 日（金）～ 12 月 3 日（金）迄
申込方法：下記 URL から申込フォームアクセスの上必要事項を記載の上お申し込みください。
　　https://forms.gle/ay5w1h3vC6jr1tPo8
問い合わせ先：h.kudou15 ● gmail.com（●を @ へ変更してください）　担当：工藤弘之

報　告

理学療法関連機器開発委員会

委員長　小川 智美

国際福祉機器展 2021　視察報告

今年度の国際福祉機器展はリアル展示（会期：11 月 10 日から 12 日、会場：東京ビックサイト青海展示棟）と Web 展（12 月 10 日まで開催）とのハイブリッド開催となりました。例年よりも会場が小規模で出展社数や入場者数の制限は設けられていたものの、これまでと変わりなく盛況であったように思いました。

過去は高齢者介護を主体とした出展が多かった印象でしたが、今年度は東京で開催されたパラリンピックが影響しているためか、多様性、共生社会を意識したブースも増えたように感じました。

今回は移動に関する情報を一部ではありますが、以下に報告いたします。

ひとつめは階段昇降の自立支援ツールです。これは壁に設置した手すり兼用のレールに取り付けられたハンドルを利用者自身が動かすことによって階段昇降動作が可能になるものです。ハンドルは身体の前方にあり、両手で支持かつ操作できます。対象年齢が 6 歳頃からとされ、操作は簡単かつ階段に対し常時正面を向いた状態で昇降が可能となるため、前方への転倒リスクを軽減できる可能性が高まるように思いました。

ふたつめは移動支援のためのアプリです。現在は車いす利用者自身や利用者同士が外出先の施設のバリアフリー情報（車いす利用が可能な飲食施設、多機能トイレなど）を発信・収集し、バリアフリーマップを作っていくことを目的としています。現在インクルーシブ教育、共生社会が謳われており、可能であればベビーカー利用者をはじめ、誰でもが情報を共有し活用できるものとなれば、共生社会を成熟させていくことができるのではないかと感じました。今後の発展に期待したいと思います。

毎年のように繰り返される災害被害の影響もあり、今年度も防災対策関連ツールは目に留まりました。
災害発生時に身を守るための環境づくり、移動制限のある方をスピーディーにかつ介助者負担を少なく避難するかなどの課題に取り組み工夫を凝らしたツールが多数展示されていました。日頃からの備えをしておくべきであることを改めて認識させられました。

最後になりますが、ここに報告した内容はあくまでも国際福祉機器展の展示のごく一部であること、また見学者の主観となっておりますことご了承ください。
これまで参加機会がなかった方、毎年参加されている方も、ぜひ国際福祉機器展に足を運び、直接製品などの情報に触れてみてください（2022 年は 10 月 5 日から 10 月 7 日　東京ビックサイト東展示ホールにて開催予定）。

＊国際福祉機器展は原則撮影禁止のため、機器の写真掲載はしておりません。
国際福祉機器展における展示機器の詳細は保健福祉広報協会ホームページ H.C.R.Web サイト https://www.hcr.or.jp/ をご覧ください。

＊公益社団法人の特性上、企業名、製品名の掲載は控えております。

報　告

倫理委員会

委員長　齋藤 弘樹

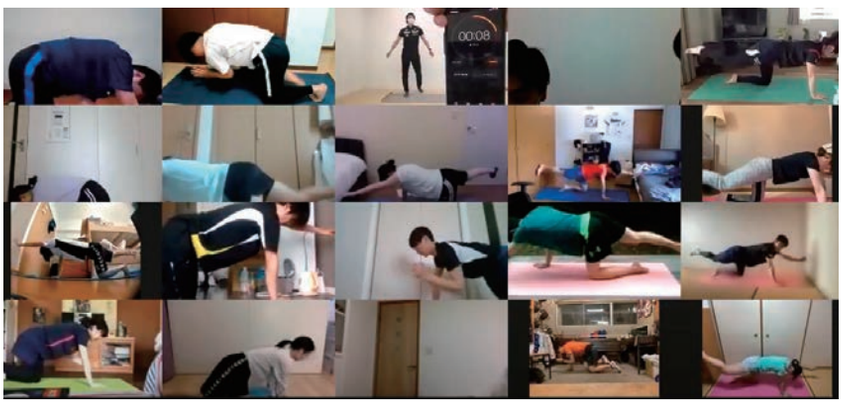
理学療法士賠償責任保険及び団体保険に関する説明会　開催報告

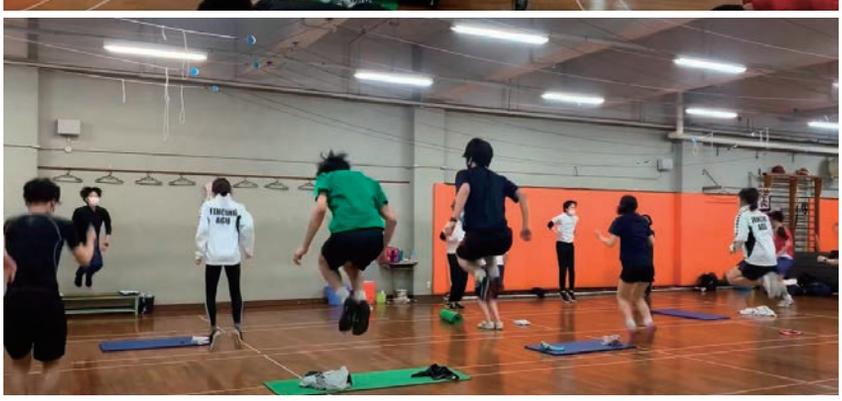
日時：令和 3 年 11 月 4 日（木）19:00~20：15
会場：WEB 開催（ZOOM）
説明者：三井住友海上火災保険株式会社（理学療法士賠償責任保険）横田　拓海 氏
損害保険ジャパン株式会社（医療・介護保険）宮原 拓也 氏
丸紅セーフネット株式会社（お申込方法について）秋元 優希 氏
参加者：都士会員 31 名
内容：倫理委員会では、これまでも理学療法士賠償責任保険について、加入推進の活動を行っておりました。その中で、会員の皆様から、直接保険会社からの説明を聞きたいとの意見を聞き、本会が開催されました。当日は、理学療法士賠償責任保険では具体的な事例や加入率の話を聞くことが出来、保険がどこまで対応してくれるのかを聞くことが出来ました。“ 病院にではなく、個人に訴えられてしまったら･･･”。万が一に備えることが大切であると改めて感じました。医療・介護保険では、補償内容及び理学療法士賠償責任保険との兼合いに関するところまでの話を聞くことが出来ました。当日の説明会では、多くの質問が挙がりました。全ての回答を得られなかったので、今後とりまとめて、会員の皆様に発信していきたいと思います。

報告者：齋藤 弘樹（大橋病院）

スポーツ局スポーツイベントサポート部

青山学院大学フェンシング部トレーニングサポート報告





私共青山学院大学フェンシング部は昨年秋より東京都理学療法士協会の皆様にご協力頂き、フィジカル強化のトレーニングプログラムをご提供頂いております。これまでも部内で考案したトレーニングメニューを何度か実施していましたが、いずれもトレーニングの根拠が弱く、選手自身も明確な効果を実感するまでに至らず継続する事が困難でした。今回、西條トレーナーを筆頭にベースとなるトレーニングメニューを考案していただき、明確な指標を示して頂いたのは部員にとっても大きな支えとなりました。緊急事態宣言中における活動自粛の際には、全てリモートによるフィジカル強化に軸を置いて活動を実施いたしました。実際にやってみるとリモートトレーニングはコミュニケーションを取るのが難しく、正しい姿勢の維持が困難であったり、モチベーションが対面に比べ低くなる傾向になったりするため、参加者一人一人が実施内容と目的をしっかり頭に入れておく必要がありました。今回はトレーナーチームの具体的なメニューとご指導により、リモートであるにもかかわらず部員が迷う事無く継続する事が出来ました。緊急事態宣言中のリモートトレーニングはトレーナーチームの皆様のサポート無しでは成り立たなかったと思います。

この一年間のトレーニングは、主にパワー強化に加え体幹の強化やバランスのとり方、体の動かし方等を中心にメニューを組んでいただきました。当部には高校まで運動経験の浅かった部員もおり、１年前には体の軸が安定していなかった選手も、現在では体幹の強化によりしっかりとした構えでプレーする事が出来るようになりました。また、フットワークスピードも長時間落とさずに持続でき、大幅に改善いたしました。フェンシングの練習ではコーチが直接剣を受ける個人レッスンがありますが、１年前に比べ剣筋や踏み込むスピード、安定感が突然良くなった選手もおり驚かされた事もあります。このように１年間のトレーニングを通じて選手達には大きな変化が見られました。

この１年間の成果といたしましては、目標としていた関東学生フェンシング選手権大会において、女子個人エペの部で１１位の成績をおさめる事が出来ました。今大会で全国学生フェンシング選手権大会推薦選手も３名出すことが出来、技術練習の時間が例年に比べて大幅に少なかったにもかかわらず好成績を収める選手を出せたのは、ひとえに自粛期間中のトレーニングによる成果であったと考えております。また、当部では一貫教育の一つとして青山学院の小中高校生の練習を受け入れております。希望者には大学生の横で強度を落としたトレーニングを一緒に実施させておりますが、継続的に参加していた中学生選手が中日本フェンシング選手権（中学生の部）にて優勝を果たし、全国カデ・フェンシング選手権大会（中学～高校１年の全国大会）においても 11 位の成績を残すことが出来ました。この様な成績が理学療法士チームご指導の下、徐々に残せるようになってきました。しかしながら半数以上の選手は強化したフィジカルに戸惑い、実戦に落とし込む事が出来ずにいるように見受けられます。フェンシングはフィジカル面の重要性はさることながら、剣の操作技術、動きの柔軟性、リズムや距離感と言った感覚も必要なスポーツです。現在のチームメンバーの多くはこれらの連携がうまくいっていないと推測され、今後の課題は身に着けたフィジカルをどのように技術面に落とし込んで行くかという事になると思います。まだまだ課題の多い状況ではありますが、この一年間の理学療法士協会の皆様方のサポートには心より感謝申し上げると共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

報告者：青山学院大学体育会フェンシング部　助監督　榎本　薫人

実施日：8 月 28 日、9 月 11 日、25 日、10 月 9 日、23 日、11 月 20 日
会　場：青山学院大学体育館　　参加選手：延べ 93 名　　理学療法士：延べ 20 名

2021 年度フェンシング大会会場サポート上半期報告会

日　時：2021 年 10 月 20 日
参加者：20 名

2021 年度はコロナ禍で上半期前半は大会が中止や延期となりました。緊急事態宣言が明けた 6 月から東京国体予選会、小・中学生全国大会予選会から感染対策をしながらサポートを再開しました。久しぶりの大会で練習不足などの影響によりインジュリータイムの対応や筋痙攣や慢性痛への相談が多く見られましたが、緊急事態宣言下においても各メンバーが自己研鑽を積み、円滑にサポート活動を再開することができました。オリンピック期間中も全国中学生選手権が開催され未来のオリンピアンをサポートする機会がありました。

オリンピックサポートでは選抜された都士会員 18 名でチーム一丸となり望み、男子エペ団体日本代表は金メダルを獲得しました！！まさに感動、エペジーーンとしました！！緊急事態宣言解除後に報告会を開催し、オリンピックの振り返りや感想を共有し、これからの理学療法について話し合いました。ご協力いただきました関係者の皆様に感謝いたします。
大会前の予防、大会後のアフターケアで選手や指導者の方からお声掛けいただくことも増え理学療法士によるサポート活動の認知度が高まっていると感じます。引き続き、下半期のサポート活動も感染対策をしながら選手に貢献できるように努めていきたいと思います。ご協力頂きました皆様、引き続き宜しくお願い致します。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　西垣　有希子（調布市子ども発達センター）

フェンシング大会会場サポート報告　～スポーツで社会を盛り上げよう！！～

東京 2020 オリンピック競技大会にてフェンシング エペ団体が金メダルを獲得しました。その興奮も冷めやらぬ間に 2024 パリ大会に向けてフェンシング選手は始動しております。

今回は数日間に渡り全日本フェシング選手権大会、東京都フェンシング選手権大会、関東学生フェンシング選手権大会、全日本学生フェンシング選手権大会、JOC ジュニアオリンピックカップフェンシング大会のサポートを行いました。

全日本フェンシング選手権大会決勝は久々に観客を入れての試合となりました。普段行われている会場とは異なる屋外会場の六本木ヒルズアリーナで行われ、非常に良い雰囲気の中行われました。選手たちも有観客の試合ということで、非常に力の入った試合を行なっていました。

学生の参加者に関しては、新型コロナウイルスの影響で昨年の大会に参加できない選手が多数いたため 2 年ぶりの大会になった選手も多く見受けられました。十分に練習できない環境の中の大会参加で、コンディション作りに苦労していた選手も多く見受けられ、医務室で相談を受ける場面もありました。

メディカルサポートスタッフの中にはオリンピック・パラリンピックでボランティア活動を経験した方もおり、オリンピック・パラリンピックの経験が地域のスポーツ現場でも生かされていることを感じました。

新型コロナウイルス感染者数が少しずつ落ち着き、スポーツ活動やスポーツイベントも徐々に元に戻りつつあります。スポーツで社会が明るくなるよう、スポーツ局では今後もスポーツ現場を盛り上げていきたいと思います。

・主　催：日本フェンシング協会・東京都フェンシング協会・日本学生フェンシング連合・関東学生フェンシング連盟
・日　時：9 月 12 日、16 ～ 18 日、10 月 9・10 日、14 ～ 16 日、20 ～ 24 日、11 月 6 日、13・14 日、17 ～ 21 日（計 22 日間）
・場　所：六本木ヒルズアリーナ、駒沢オリンピック公園屋内競技場、駒沢オリンピック公園体育館、大蔵第二運動場体育館、北区滝野川体育館
・参加選手：延べ　2108 名
・対応選手：延べ　166 名
・派遣者数：延べ　31 名

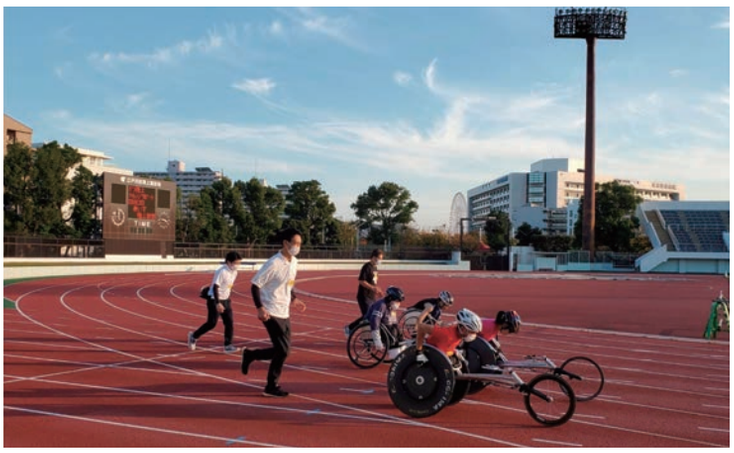
報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　副部長　生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告
局長　板倉 尚子

車いす陸上教室サポート

・日程：2021 年 10 月 16 日、10 月 30 日、11 月 13 日（3 日間）
・会場：江戸川区陸上競技場
・参加者数：延べ 18 名
・派遣者数：延べ 12 名



江戸川区では車いす陸上教室を毎年開催しております。今年度は 5 月から 3 回、10 月から 3 回、全 6 回開催されました。オリンピック・パラリンピック開催後の障害者スポーツへの関心が高まり、子どもから大人の方まで参加者の年齢層が広がり、参加者に合わせたレーサー車いすへの移乗介助、シーティング調整、トレーニング指導など、個別サポートに難渋しながらも、回を重ねるごとに参加者の皆様の成長を感じることができました。
また、教室プログラムでスポーツイベントサポート部が担当させて頂いたウォーミングアップやトレーニングでは、体の使い方やバランス、姿勢保持などを中心に行い、参加者やご家族様にも好評でした。
これからも、色々な年代のたくさんの皆様に、スポーツを通して体を動かす楽しさを伝え、充実した人生を送っていただけるサポートを続けていきたいと思います。ご協力下さった皆様有難う御座いました。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　鈴木真治 (森山ケアセンター)

杉並障害者サポーター講座「はじめの一歩」

日　程：2021 年 9 月 26 日、11 月 3 日
会　場：荻窪体育館 アリーナ
参加者：13 名
理学療法士：2 名

当講習会は、障がいの有無に関係なく、地域で安心してスポーツができる場を作るために、その活動をサポートする「スポーツ関与者」の増加を目的とした講習会です。今回、理学療法士の立場として当講座に参加しましたので報告させていただきます。
当講習会は全 3 回実施され、第 1、2 回は日本体育大学の野村一路先生とゼミ生のサポートのもとスポーツ教室を行う上での流れや方法を伝達して頂きました。
第 1 回の講座はボッチャ、フライングディスク、カーレットの競技を体験し、スポーツ・レクリエーションを楽しむための工夫や支援方法などについて学びました。
第 2 回は、運動を通して、参加者とスタッフ、参加者同士が交友関係を築くために有効な工夫や支援方法などを学び、第 3 回に向けた準備を行いました。
2021 年 1 月 30 日に行われる第 3 回では実際に参加者を募集し、受講者がサポートしながらスポーツ教室が開催される予定です。
私たち理学療法士は、スポーツ教室が行われるまでは講座を受講されている方々へ、障がいのある方の身体の動かし方や対応のポイントを提案する・相談を受ける立場として対応し、当日はスタッフとして参加者の方へ身体の動かし方をサポートする予定です。
障がいのある方もない方も一緒になって楽しめる教室が開催されることは、地域交流としても大切な場になると考えています。
参加される方、スタッフ全員が楽しめる会になるようサポートできれば嬉しく思います。

報告者：菅谷真希（清泉クリニック整形外科）

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告
局長　板倉 尚子

トップアスリート発掘・育成事業 13 期生アーチェリー体験会

東京都では、オリンピックなどの国際大会で活躍する将来有望なジュニア選手を発掘し、育成・強化する「トップアスリート発掘・育成事業」を、平成 21 年度から実施しています。今年度、アーチェリー競技の発掘事業のアドバイザーとして参加させて頂きましたので、ご報告させて頂きます。

対象：日本国籍を有し、都内に在住かつ在学する中学校 2 年生
主催：東京都、公益財団法人東京都体育協会
協力：公益財団法人日本オリンピック委員会、対象 7 競技の東京都統括競技団体

【選考方法】
第一次選考、実技審査で基礎的な身体能力テストを行い、第二次選考、各競技体験を 2 日間行います。

【アーチェリー体験会】
9 月 20 日 (月)、10 月 17 日 (日) 両日とも 9:00 ～ 17:00 (対象者約 35 名)
開催地：江戸川区総合体育館アーチェリー場

　アーチェリー競技のルールや用具の説明を行い、弓を持たずに素引きの練習、そして弓を持ち素引き、そして近射（2，3m の距離）から行います。その後、6 m→ 9 mと距離を伸ばしていきます。点取り（個人戦）や団体戦は他の参加者と勝負を行います。参加者は、的の真ん中に矢が当たることや、勝負に勝つことなどで競技の楽しさを体感しています。私は、参加者の全体を見ながら、準備体操や行射の姿勢からアーチェリー競技の特性に合っている参加者のリストアップを行っています。

報告者：スポーツ局　野々山真樹（日本女子体育大学健康管理センター）

（江戸川区総合体育館施設概要から引用）

すぎなみスポーツアカデミー障害者サポーター講座　～ボッチャ体験教室～

杉並区では地域において、障害のある方も一緒に安心してスポーツ活動ができるように、サポート方法を学ぶ講座としてすぎなみスポーツアカデミー障害者サポーター講座を開催しております。
障害者サポーター講座の事業として「ボッチャ体験教室」が開催され、老若男女問わず幅広い年代の方がサポーターとして参加されました。
当事業は全 5 回を予定しており、サポート方法を講座で学びながら現場活動を経験していく運びとなっています。
第 1 回目は午前中に講座でサポート方法を学び、午後に障がい者のボッチャサポートを行いました。ボッチャ参加者には肢体不自由の方、知的障害の方が参加され、サポートしながらも一緒に練習・試合を行い、楽しみながらのサポートとなりました。
第 2、3 回目は残念ながら雨天によりボッチャ体験教室は中止となってしまいましたが、サポーターの皆様と講座を通して交流を図り、次回に向けて具体的なアイスブレイク、試合内容、感染対策などについて話し合い準備を進めております。
また理学療法士の役割としてアイスブレイクを含めた準備体操を依頼されております。参加者の緊張をほぐしながら、安全にスポーツが出来るようサポートし、引き続きサポーターの皆様と交流を図りながら、地域の障がい者スポーツを盛り上げて行きたいと思います。

日時 :2021 年 10 月 3 日、10 月 17 日、10 月 31 日
場所：杉並区荻窪体育館、都立永福学園
参加者：8 ～ 25 名　理学療法士 : 各 1 名ずつ参加
報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　西條 攻（三宿病院）

スポーツ局学校保健部

報　告

局長　板倉 尚子

【防災教育授業】

自然災害の頻度や被害規模は年々増加しており防災への意識が高まっています。文部科学省公示の「学校安全思料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」においても、学校安全に関する指針が示されており（2019 年 3 月公示）、災害に対応した危険の理解と安全な行動の仕方に関する教育の必要性が指摘されています。学校では発災時に児童生徒が自ら考え・行動し災害から自身を守る防災教育の取り組みが行われています。東京都理学療法士協会学校保健部ではエイブル山内株式会社の協力で、防災教材を活用した授業を企画しました。本教材は子どもを取り巻く生活環境に着目し、一人で過ごす時間に発災した時に自ら考え安全に行動できる力を育むことを学修目標としています。その初回となる授業を 2021 年 11 月 15 日に神田女学園中学校高等学校（東京都千代田区）中学 1 年生（45 名）を対象に行いました。授業では、発災時に 1 人でいる状況を付与した後に、「まず、何をすべきだろう」、「これからどうする？、どこへ行く？、何をする？」を 2 分間で考えた後にグループワークを行い、各発表に対してより具体的に考えるためのアドバイスや更なる話題提供をしたのちに、２回目のグループワークを行う進行で実施しました。授業に参加した生徒は積極的に発言し、災害から安全に身を守るための考え方や行動について学ぶ機会になりました。今後も都内小中学校へ学校安全・防災教育授業を展開する計画をしています。

報告者　スポーツ局　局長　板倉尚子

スポーツ局国際競技大会・スポーツ理学療法推進部

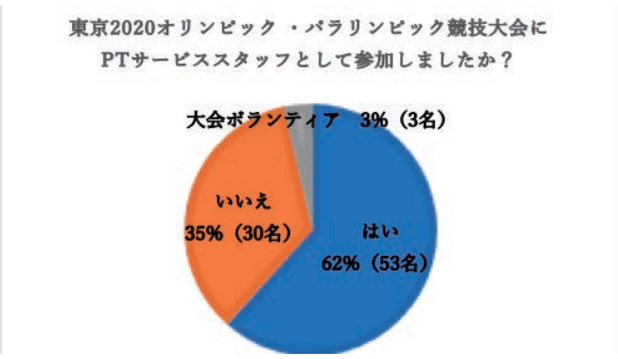
報　告
局長　板倉 尚子

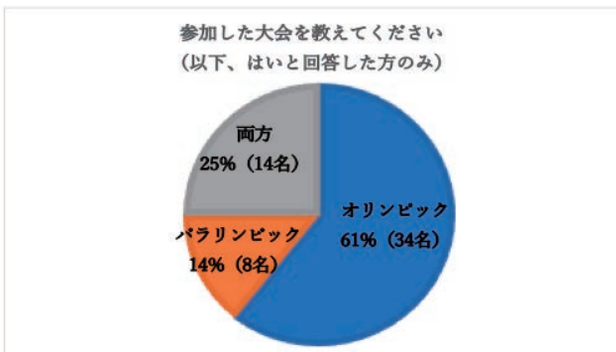
東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会
理学療法サービススタッフ活動についてのアンケート調査報告
～スポーツ局登録者へのアンケートより～

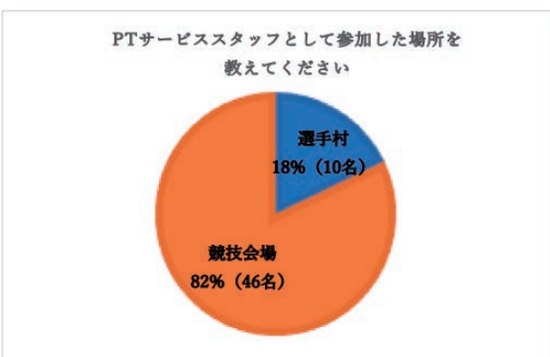
この度、スポーツ局登録者へ東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会についてのアンケート調査と、今後スポーツ局に希望する活動内容についてアンケート調査を行ったため下記に報告致します。

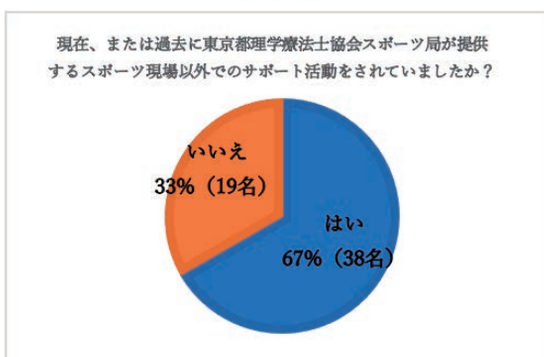
【結果】

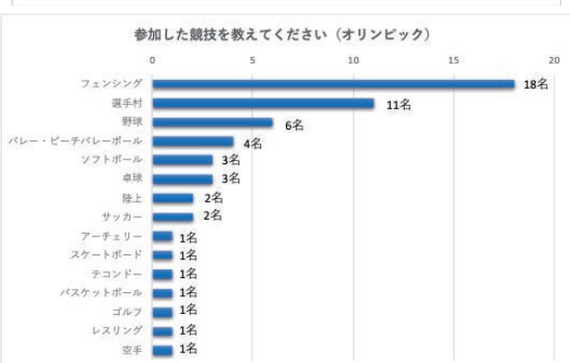
回答者 86 名／スポーツ局登録者 140 名　アンケート回答率 61.4%

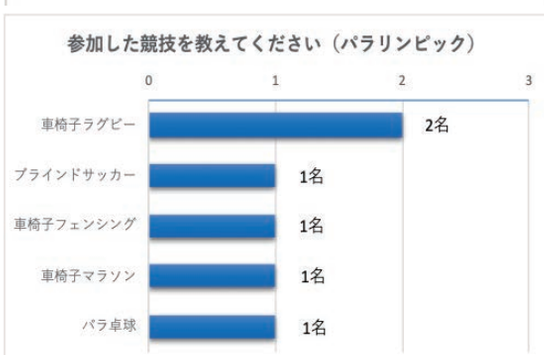












【まとめ】

86 名の回答者全員が過去に 1 回以上オリンピック･パラリンピックに向けた研修会を受講していました。今後のスポーツ局に対する希望の多くは、BLS（1 次救命処置）や競技特性・競技における外傷・障害についての研修会を開催して欲しいといった内容でした。今後もスポーツ理学療法の発展と都士会員の専門性向上に向けた企画を発信し、本大会のレガシーとしたいと思います。

【スポーツ局登録のご案内】

東京都理学療法士協会スポーツ局にご登録または登録更新を希望される方は以下のフォーマットに従って入力して下さい。ご登録後、スポーツ関連情報の配信をさせて頂きます。

※現在、ご登録されている先生方も情報更新のためご入力下さい。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdOo2FyCTE3n6c5bTh59U75ReEOgC1Pkgx3Jxnev0qI9e-kyg/viewform

報　告

災害対策委員会

委員長　松本 浩一

【第 14 回災害時安否確認システム予行演習報告】

期　間：2021 年 9 月 8 日（水）～ 9 月 8 日（水）
参加者：680 名（内会員 485 名）　※前回 648 名（内会員 411 名）
＜参加者数別所属施設分布＞

＜所感＞
参加者数は徐々に増加しているものの、会員数から考えると、より多くの方に参加していただきたいと考えております。次回は 2022 年 3 月 11 日（金）～ 3 月 18 日（金）での開催を予定しておりますので、皆様、ご理解とご参加の程何卒よろしくお願い申し上げます。

報告者：災害対策委員会　松本浩一（総合東京病院）

お知らせ

機関誌編集部

部長　中山　雅和

■　機関誌『理学療法　東京』投稿募集のお知らせ　■

当士会では年一回、機関誌『理学療法　東京』を発行しており、投稿原稿を常時募集しています。投稿された原稿は査読者に依頼し掲載可能とみなされれば校正ののち、その時点で最も発行が近い『理学療法 東京』に掲載します。

生涯プログラムへの反映について

・新人教育プログラムは、反映されません。
・認定・専門理学療法士制度では，『3.-4) その他の査読付きリハビリテーション関連雑誌の筆頭著者 10 ポイント』に該当します。
＊ただし、内容によって専門分野での認証されない場合があります。反映される方は、発刊後に自己申請をお願い致します。

《執筆投稿規定》

. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】
公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】
投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】
本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】
ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】
原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】
1. 論文構成
1）標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
2）キーワード：標題及び要旨から３個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3）著者名、所属名
4）要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて 400 字程度で記載する。
5）本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。
① はじめに（序論、諸言、まえがき等）
② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。
③ 結果
④ 考察
⑤ 結論（まとめ）
⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が３名以上の場合、最初の２名を記載し、他は「･他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。
< 表記例 >
・藤田信子，桝田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動―筋電図学的分析．理学療法学 ,17:27-30,1990.
・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.
・真島英信，猪飼道夫：生体の運動機能とその制御 . 杏林書院 , 東京 ,1972,pp185-193.
・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths,London,1983,pp224-227.

6）図表
原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。
2. 原稿規定分量
原則として 400 字詰め原稿用紙 20 枚・8000 字以内とする。
3. 文字表記
原則として現代かな使い、数字は算用数字，単位は国際単位系 （SI 単位）を用いる。
4. 略語
略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。
5. 表紙頁，著者頁
　論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード (3 個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先（住所・電話番号・Email アドレス）を記載する。表紙頁，著者頁の後に要旨･本文･図表を改めて記載する。
6. ページ番号・行番号
　原稿にはページ番号（最下部中央）と本文右（または左）に５行ごとに行番号を記載する。
【原稿送付方法および連絡先】
1）原稿送付先
原則として投稿原稿一式を１つのファイルにまとめ、電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。
2）原稿送付先および連絡先
〒 189-0024　東京都小金井市中町 2-22-32
社会医学技術学院　　理学療法学科
(担当者) 中山雅和
TEL：042-384-1030
FAX：042-384-8508
E-mail：pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

（平成 31 年 1 月 31 日　改定）

編集後記

COVID-19感染拡大もようやく一山超えてきた印象がございます。東京都の新規陽性者も11月24日現在で５名となりました。しかし第六波のリスクも依然として払拭できる状況ではないことは、皆様にもご同意いただけるのではないでしょうか。一方学会などでは一部対面開催も行われており、私も先日参加してまいりました。議論の深まり、熱量の感じ方など改めて対面の良さを感じましたが、オンラインでの効率性も改めて再認識した次第です。(M.I)

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

9,849 名（令和３年 11 月２５日現在）

（事務局）　〒 151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5　バロール代々木４０９号

Tel：03-3370-9035　FAX：03-3370-9036